

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3611510227		
法人名	医療法人十全会		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	徳島県板野郡板野町犬伏字鶴畑42番地(088-672-1022)		
自己評価作成日	平成28年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp">http://www.kaigokensaku.jp</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年3月2日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者が張り合いや喜びをもった質の高い生活ができるよう、心身の活性化を目指した季節感を感じられる行事、敷地内の多目的ホールでの様々なエンターテイメント開催、レクリエーションや地域と触れ合える場所へ外出できる機会、野菜・果物の収穫・調理・食事や美しい花等の自然と触れ合う機会を創出することに努めている。また利用者、家族、職員間、関係者等すべての方への挨拶、笑顔を中心掛け、明るくて心やすらぐ雰囲気作り、チームワークの取れた職員連携と医療連携を徹底することで、安心、安全、安楽なケアを目指し、地域の中で信頼を持っていただける存在となることに取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、田園地帯に囲まれた静かな場所に位置している。近隣には公園があり、利用者が散歩や季節の花々を楽しむ場所となっている。管理者や職員は“地域の中で絆を深く信頼を築く”という理念を掲げ、日々のケアに取り組んでいる。併設の医療機関と密に連携を図り、24時間の対応が可能な体制を構築している。管理者や職員は、法人内の委員会活動や研修に意欲的に出席し、より良いサービスの提供に向けて取り組んでいる。また、地域の中学生の体験学習や介護の研修生の受け入れを行い、地域の認知症ケアのアドバイザーとしての役割を担っている。敷地内の多目的ホールを地域の研修会場として提供したり、カヌーやプロレスラーの来訪、また大衆演劇の公演を開催したりしており、利用者や地域住民で楽しんでいる。管理者や職員は、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、ともに支え合う関係づくりに取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について管理者と職員が話し合い、地域密着型サービスの目的を盛り込み、運営上の方針や目標を具体化し、理念を共有し実践している。	管理者や職員は、“地域の中で絆を深め信頼を築く”という地域密着型サービスの意義や役割をふまえた理念を掲げている。毎朝のミーティングや勉強会の際に確認し、実践に繋げるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、自治会に加入し、地域の秋祭りには子供御輿のグループ、大人御輿のグループがそれぞれ訪問し、利用者と季節感ある交流をしている。また、地元中学生の職業体験学習で介護現場見学を受け入れたり、交流に努めている。	事業所では、中学生の体験学習や介護の研修生を受け入れている。職員は、近隣の清掃活動を行うなどして地域貢献に取り組んでいる。併設の多目的ホールで開催する行事には、多くの地域住民の参加を得ており、相互に交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、実習生の受け入れも積極的に行っており、事業所での実践内容を効果的に伝達している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事報告、入退所報告、連絡、取り組んでいる対策、相談事項を協議し、利用者の処遇、環境改善に繋げるよう、実践している。またその内容を全職員に対して伝達し、サービス全体の質の向上に生かしている。	定期的に運営推進会議を開催している。利用者の暮らしぶりや行事などの取り組みを伝えている。出席者から得た情報や助言をサービスの質の向上やケアに反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	要介護認定申請や入退所連絡票提出の機会などに、町担当者へ、利用者の暮らしぶり等を伝え相談し、協力関係を築けるように取り組んでいる。	職員は、定期的に町担当窓口に出向いたり、事業所の状況を伝えるために来訪してもらったりして助言を得ている。ヒヤリハットや困難事例の報告を行うなどして、課題解決に向け検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒に歩いて行く等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。	管理者や職員は、身体拘束廃止委員会や研修会、ミーティングなどの際に、身体拘束の弊害について話し合っている。職員間で注意をしつつ、身体拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、勉強会やミーティング等を実施し、虐待となる行為、例えば暴力行為だけでなく、言葉の暴力、無礼な態度等による心理的虐待、必要な介護の放棄など、虐待の本質について周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、勉強会を開き、知識・ノウハウを身につけ、実践できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約をする際は、書面とその内容を懇切丁寧に説明を行い、疑問点、質問には、わかりやすく再度説明し、理解、納得が高まるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に公的な苦情相談窓口を文章や口頭で説明し紹介している。また玄関ホールのわかりやすい所に意見箱の設置し、多くの相談や苦情をお受けできるように配慮をし、改善に対する要望として前向きに捉え、運営に生かしている。	家族の来訪時に、職員から積極的に意見や要望を聞くようにしている。職員は、利用者との会話の中で思いをくみ取るようにしている。出された意見や要望は、職員間で話し合うなどして運営面に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見を聞く機会を作る工夫をし、コミュニケーションを多くとることで、意見を言いやすい環境を構築している。	代表者や管理者は、毎日のミーティングやケアの中で、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。職員の気づきやアイデアを取り入れ、運営面に反映し、職員の働く意欲の向上やサービスの向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の資格を給与に反映するシステム作り、また資格修得に向けて学校への通学や研修会への参加できるように勤務調整、金銭支援を行い、職員個々の努力や実績が評価し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には、なるべく多くの職員が受講出来るように勤務調整、受講料等の金銭支援をしたり、職員を育てる機会の確保に努めている。また研修報告はすべての職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と職員は、他のグループホームや事業所との交流、また、交換研修を通じて、一緒に学んだりサービスの質の向上に励んでいる		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに、本人の思いや不安をしっかり受け止め、安心感が形成されるように関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談をする家族等の立場に立って、家族等の思い、不安を受け止めたり、家族等の疑問に徹底的にお答え、説明を行い、頼って安心できる存在にいち早くなるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い状況等を確認し、支援の提案、話し合いを繰り返す中で、必要なニーズを明確にし、対応可能なサービスを複数説明することに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事、テレビや新聞などの情報等、家事作業を共同したりして、本人の体験を職員も一緒に体験しながら、生活の中によりそい合っている関係となるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族の気持ちを理解することに努め、家族の日々の気付きや思いの共有に努め、家族が思っていることが実現できるように支援することを実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活の延長線上であるよう、地域に暮らす馴染みの知人、友人等の面会が、本人の現状の心身の状態で、十分なコミュニケーションがとれるように支援し、関係に継続支援に努めている。	職員は、利用者一人ひとりがこれまでに培ってきた人間関係や社会関係を把握するように努め、関係が途切れることのないよう支援している。事業所として、利用者の家族や友人、知人の来訪を快く受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報連携し、申し送り、ミーティング等にて伝達し合い、利用者同士の交流を適正に支援できるようにいつも準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、また在宅生活において、現状がどのように応用・実践できるかを考えることで、連続性のある関係を続けていける関係を構築することに努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からの観察の集積により、本人の心身の状態を把握しつつ、話しかけ、または傾聴し、家族から情報を得て、言葉や表情または行動パターンから本人の気持ち、意向を把握するなど工夫を凝らしている。	職員は、日頃の利用者との会話や行動、表情などから、一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。職員間で本人の視点に立って話し合うなどして、情報を共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とその家族、友人、知人、関係者等、その人の昔をよく知る人から教えてもらい、本人の全体像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、利用者の訴え、気付いたことを申し送りミーティングや日々の業務の中で、常に話し合い情報交換する習慣の徹底をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題の抽出のため本人、家族、関係者と話し合い、すべての職員の観察結果から得られる意見を取り入れて作り、達成可能な課題作りに努めている。	毎月、モニタリングを行い、利用者の状況変化に応じて介護計画の見直しや評価を行っている。本人や家族の意向を尊重したうえで、職員や医療関係者間で課題やケアについて話し合い、本人のできることの継続や達成可能な計画の作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとのケア記録に利用者の生活の実態を捉えた、重要な観察点を入れた記録を作成するようにし、職員間で情報を共有し、適切な介護計画作りに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化している状況、要望に対して、迅速な対応ばかりにこだわらず、適切なタイミングを見抜いて必要なサービスが有効に実践されるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子ども神輿、大人神輿、民生委員、回転寿司店などの外食店等の地域資源や、地域の中学生の職業体験学習等の受け入れを、今後も継続して実施することで地域とのつながりを築くことに努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が、馴染みの医師による、継続的な医療を受けられるよう、また、状況に応じて、本人や家族が希望する医師による、必要時及び定期的な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族や職員、専門科医、かかりつけ医、看護師等と密に連携を図っている。緊急時には、協力医療機関の対応が可能な体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化の早期発見を毎日のバイタルチェックを基礎とし、職員間で共有している情報、話し合い、ケア記録を活用して行い、変化に対する迅速な対応を、医療連携を徹底することで、適切に実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適切なケアを病院関係者と話し合い、情報交換し、また本人、家族の意向を伝え、退院後の生活についても見通しがつけられる働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の思い、意思の把握に努め、医師、看護職員との連携体制の構築で、重度化や終末期を迎えた時に納得の得られる形へご協力できるように取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期に関する事業所の方針等を説明している。利用者の心身状況に応じて、本人や家族の意向を再確認している。利用者の意向にそった支援を行うことができるよう、関係者間で話し合うなどして、対応方針の共有化を図っている。管理者や職員は、併設の医療機関の開催する緩和ケアや緊急時対応等に関する研修会にも参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	意識不明等の緊急時の対処方法等、マニュアルを作成するとともに、実践研修会にて実際に実技訓練を行うことで、実践力を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回以上利用者と共にマニュアルに基づき、屋間及び、夜間想定等、災害発生条件に変化を与え、防災避難訓練や外部の防災専門団体の実技訓練等を行っている。非常ベルと通報装置が連動した新システムを早期に導入している。	事業所では、災害時に備え備蓄を行っている。法人と合同で訓練を行っており、備蓄品を使用した炊き出し訓練を行っている。また、これまでのDMAT訓練での体験を通じて、より実践的な取り組みに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ち、訴えの傾聴を第一とした上で、自然と本人が自己決定へ自身で歩んでいけるように支援することで、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	職員は、利用者への言葉かけや関わりの中で、一人ひとりの誇りやプライバシーを大切に、自己決定しやすい状況の確保に努めている。職員間で、人権擁護や法令遵守に関する話し合いを行っており、その人の立場に立った支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の深い観察、職員間の情報共有で、本人の個性を正確に把握し、本人ら意思決定がしやすい環境、雰囲気を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性に対する対応を心掛け、それぞれのペースを大切にしながらも、集団の中に発生するプラスのエネルギーの好影響を受けられるように、離床生活を基本とした中で、本人の希望を取り入れた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについて、本人が自身で選ぶ、または判断力不十分がある場合は、好み、希望が取り入れられるように、あらかじめ選択肢の準備、好みの提案的会話等工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の内容やその関連情報等を会話したりして、食事に対する興味を楽しい方向に向けたり、畑の野菜や果物を一緒に収穫、調理することで、季節感あり、家庭的で健康的な雰囲気作りを実践している。	食事は外部委託をしており、事業所で盛り付けている。利用者と職員は、敷地内で育てた野菜の収穫や漬物づくりなどをしており、利用者の得意なことやできることを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療連携の下、利用者ごとに必要な食事内容、形態を検討し、計量可能なコップや電子重量計の使用で、それぞれの健康状態や能力に合った食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯、義歯、自分で口腔ケアできる方、介助が必要な方、それぞれに自立支援となる適切な、声かけ、見守り、介助をし、口腔の清潔を保てるように対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄能力に応じ、おむつ、紙パンツ、パッド類を最小限の適度量での使用とし、トイレ排泄能力の維持向上、排泄感覚の維持向上となるように支援している。	職員は、利用者の排泄パターンの把握に努め、一人ひとりの自尊心に配慮したトイレ誘導を心がけている。日中は、トイレでの排泄を支援していることから、自信の回復や身体機能の向上に繋がるような支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄、排便チェックを毎日適切に記録し、状態の情報共有を職員間で徹底し、散歩等の運動、心身のリフレッシュで胃腸の活性化を促進したり、食事の食物繊維が多い品の摂取において食が進むように声かけ、介助をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望や健康状態を確認し、個々が快適に入浴できるように支援している。入浴を拒む方は、本人の個性・これまでの人生観を尊重した声かけ、対応で意欲増進を支援しています。	利用者一人ひとりの心身状況や希望に応じた入浴を支援している。職員は、利用者の羞恥心や不安感を取り除くよう配慮し、くつろいだ気分で入浴することができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に離床することで日中に活動的な生活を送っていただき、昼夜逆転の予防の支援と、体調や気分に応じて、会話による心身のリラクセス、生活リズムを損ねない程度の居室での休息を配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調不良、心身の変化があれば、医師、看護師との医療連携で、適切な薬の処方と納得のいく説明がなされるように支援。居宅療養管理指導の利用で、薬剤師の専門的管理指導も受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気質、個性、能力を観察し、意欲を持ってたり、楽しい共同作業になるような仕事をしていただき、自身の役割、楽しみを見つけ出し、感じていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握し、初詣、回転寿司店等での外食、バラ園、みかん狩り見学などの外出を楽しんでいただき、家族や友人・知人とも外出できるように連絡調整、車いす、歩行器等の器具貸出で支援している。	本人の希望に応じて、周辺の公園の散歩や買い物、理・美容院等に出かけている。車いすを利用する方も、外食や季節の行事等に出かけることができるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームはなみずき1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、ご家族が個に様々な意向を持っているが、本人の安心や満足に向けて小額でも所持金を持って頂けるように家族と相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話や手紙(年賀状等)のやりとりが気軽にできるようにして家族、社会とのつながりを感じていただくように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は、季節感ある飾り付け、行事写真の掲示等で安らぎと楽しさのある空間づくり、視覚的にも明るい空間となるように調整し、居心地のよい場となるように工夫している。	廊下やホールには行事の写真や季節の作品、花等を飾っている。レクリエーションの笑い声やカラオケが得意な方の歌声が聞こえるなど、利用者と職員が自然と集う居心地の良い場所となっている。一人ひとりの価値観にも配慮しており、その人らしく過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間には、ソファ、椅子、TV、DVD録画再生機を適切な位置に設置し、気の合った利用者同士で楽しく過ごせたり、ひとりで落ち着いて過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた、または使いやすい、ダンス、寝具、テレビ、ラジオが設置されるようにし、本人が自分らしく落ち着いて過ごせるように支援している。	居室には、利用者の馴染みの家具や家族の写真等を持ち込んでもらっている。利用者や家族と相談するなどして、その人らしく居心地良く過ごすことのできる環境づくりを支援している。家族や知人、友人の来訪時には、気兼ねなく会話を楽しんでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日の職員の観察によるケア記録や話し合いによる職員間の情報共有で、わかりやすい目印やネープレート、設置物のレイアウトの変更を行い、自立支援と安全性の確保に努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホームはなみずき2階 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて、事業所の理念を唱和してすることで事業所としてサービスの在り方や方向性についての認識を共有につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の秋祭り子ども神輿が来て下さり、ハッピー姿の子供たちの元気な掛け声に皆さん喜ばれます。地元板野中学校の職業体験学習の受け入れを行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学職業体験や初任者研修において、認知症発症をされた方への理解や対応について話し合いの場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容等について、ご意見や提言をいただき、その内容について職員間で周知して、今後の活動に活かせるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更新認定時に担当者に、利用者の状態 暮らしぶりを伝え、今後の支援に繋がるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等を通じて、職員全員に身体拘束をしないケアの意義について、周知に努めている。出入り口は自由に入出りできるよう開放し、日中できる限り屋外で散歩にお連れするなど、開かれた施設に向けて取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等を通じて高齢者虐待防止法について、周知に努めている。虐待の定義とは、身体的暴力だけでなく、暴言や無視すること、心理的虐待、介護放棄も含まれる事を指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホームはなみずき2階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者職員は研修会等を通じて、日常生活自立支援事業、成年後見制度についての理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は、文書と口頭によって十分な説明と理解に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に苦情相談窓口の紹介をしている。意見箱の設置し、意見要望、苦情を気がねなく、外部へ表せる環境を整え、運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は一人一人の改善意見にきちんと聞く機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力実績、勤務状況を把握して、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、介護支援専門員資格等資格修得や介護の質の向上のため、研修を受講出来る機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と職員は、他のグループホームや事業所との交流、また交換研修を通じてサービスの質の向上に励んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホームはなみずき2階 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	共感的態度、柔らかい表情や言葉使いで傾聴に努め、本人の不安や要望等に耳を傾け本人の安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する段階で、生活歴、本人と家族との関わり方の経緯、困りごと、心情について率直に耳を傾けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医師、リハビリも含めた連携の下、本人家族と面接の機会を持ち、ニーズの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	優しい言葉温かい笑顔で、家族的な雰囲気づくりに努め、共に支え合う関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思い、健康状態等について家族にも伝え、情報の共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで関わり合いある方々との関係が途切れないよう、デイサービス等会いに行ける機会が得られるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は談話室で楽しく仲良く過ごしていただき、良い人間関係が築くことができるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	グループホームはなみずき2階	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細やかな連携を心がけている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共感的態度でコミュニケーションを通じて、心情を理解に努め、出来る限りご本人本位に考え検討している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの生活歴、ご家庭での暮らし方や生活環境について家族等から情報の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察記録、排泄・食事・睡眠・バイタル表記録によって、日々心身の状態の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題を把握し、本人の生活の質を向上させていくために、どう介護サービスを提供していくべきか、本人家族、医療関係者と連携をとりながら、利用者本位で介護計画の作成をしている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子ケアの実践、結果、気づき等について、観察記録に記入し、職員間で情報の共有をして介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の変化要望に応じて、既存のサービスに捉われず、できるだけ必要な時に必要なサービスが提供できるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホームはなみずき2階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、中学生職業体験学習等今後とも継続できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本位で、本人家族の要望を大切に、かかりつけ医に受診ができるよう支援に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と日々連携を取り、利用者の体調の把握、変化を見逃さず、早期発見に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療出来るよう家族と相談しながら、病院関係者と連携を重視し、情報提供に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方について、本人家族の意向、意思を尊重し、納得した終末期を迎えられるよう随時確認をしながら、取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生術、AEDについて院内勉強会で学習、訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害はいつ起こるかわからず、訓練を年2回以上実施することで、一人ひとりの状態を踏まえた、避難誘導についての体制を築いている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホームはなみずき2階 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保持、利用者本位、プライバシーを損ねないよう言葉使いに気をつけて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の場面、行事に参加等、その都度一人ひとりに声かけをして、自己決定を促し利用者本位のケアに取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等職員側の都合を優先せず、利用者さんのペースで過ごすことができるよう、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出される時など、身だしなみが整えるよう支援しています。できるだけ自分でして頂けるよう、環境を整え、自分で出来にくい利用者さんには、職員でサポートしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事が楽しいものになるよう、家庭菜園で収穫した季節の野菜や果物を、可能な限り利用者が参加できる形で調理し食べて頂いています。また、お彼岸にはおはぎを作ったり、ぜんざいを作ったりしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事記録表を記録し、一人ひとりの食事量水分摂取量を把握しています。嚥下状態によって、食事形態を変更を検討するなどしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔を保持に努め、感染症の予防に繋がっています。		

自己	外部	項目	自己評価 グループホームはなみずき2階	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターン、習慣を日々の観察によって把握し、タイミングよく声かけを行いトイレにお誘いして、自立支援を念頭に置いた支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表、食事記録表を活用し、水分量の把握に努めている。毎日牛乳を飲んで頂いている。食物繊維を多く含む食品をバランスよく摂取ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者本位で、体調を考慮しながら、楽しくコミュニケーションを取りながら、気持ちよく入浴ができるよう支援している。ヒートショックの対策、転倒予防のため脱衣室、浴室の整理整頓に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量が増えるよう、レクリエーション等を行い、一日の生活リズムを整えるよう支援している。夜勤者は利用者が安眠を促すことができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の目的や用法用量について十分な説明がされるよう支援している。飲み忘れや誤薬防止のため、一人ひとりの名前日付の読み上げながら、確実に服薬ができるよう支援している。居宅療養管理指導の利用により、薬剤師による服薬指導が受けられるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、状態を把握して、お洗濯たたみを手伝ってもらったり。お掃除を職員と一緒にしてもらったり、自立支援を念頭に置いた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごと等の楽しみのため、外出ができるだけできるよう支援している。できるだけ多くの利用者の自立を促すため、戸外で新鮮な空気を吸い、ストレスが軽減できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			グループホームはなみずき2階 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことにより、安心感が得られることに向け、少額でも持つことができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、電話をかけたり、手紙を出したりできるよう支援している。。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な室温 湿度が保ち、整理整頓に努めて居心地の良い空間づくりをしている。季節感、見当識に配慮した飾り付けを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	楽しくおしゃべりを楽しんだり、季節の行事にお誘いしたり、それぞれ自由に楽しく過ごせるよう、テーブルの配置を工夫するなど配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅と同じように、馴染みの家具や小物をお持ちいただいたり、居心地の良い空間になるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること できないことの把握に努め、主体的に自立した生活ができるよう、居室等の表示、建物内の整理整頓に努めている。		